

KDS NEWS

dosokai

2024 no.191

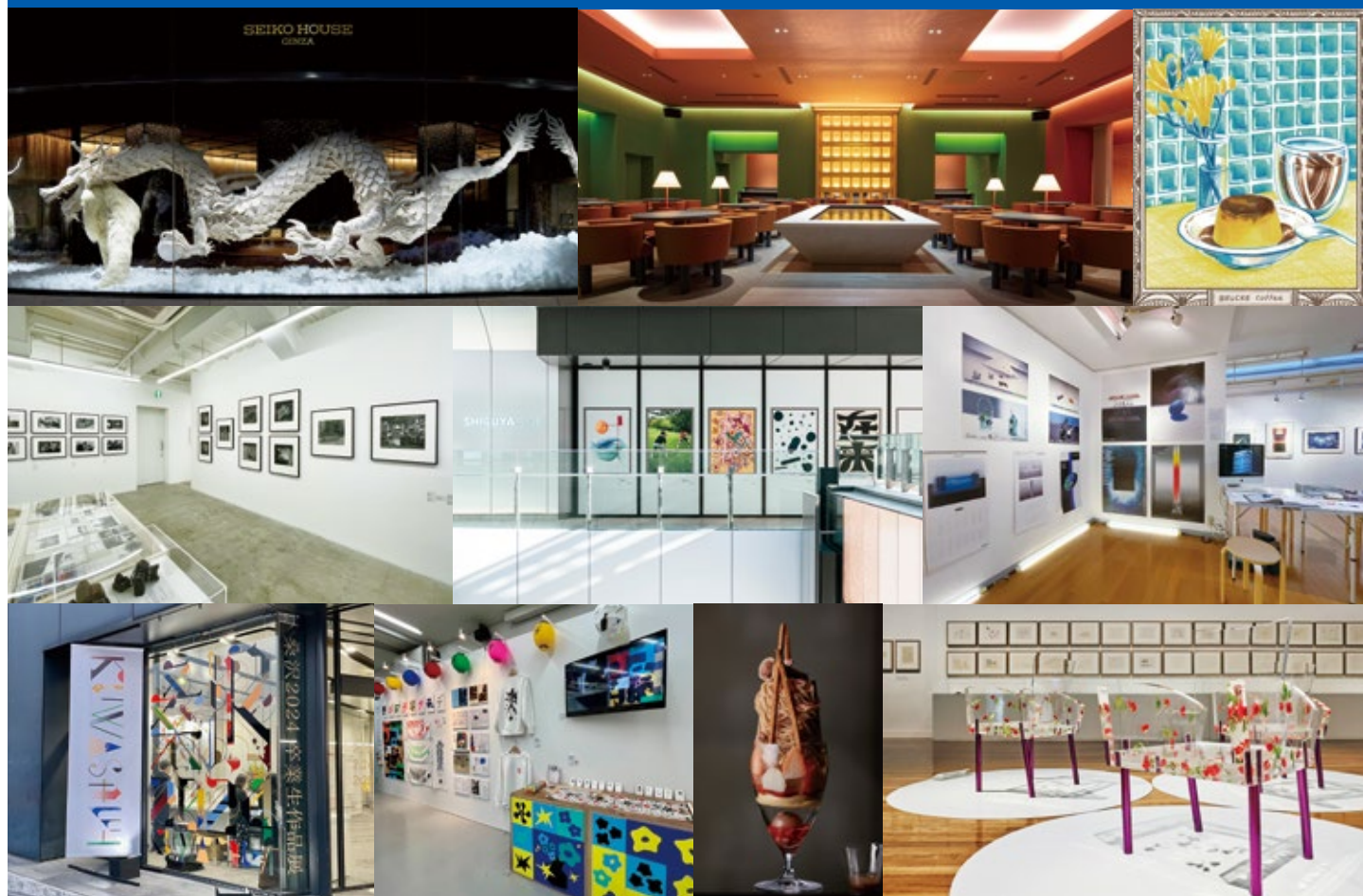


第64回 定期総会開催 および 2024年 桑沢新人賞 表彰式開催のお知らせ

2024年5月25日(土)

14:00~16:30

JR 原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F
LIFORK 原宿 LOUNGE



桑沢デザイン研究所同窓生の皆さまへ

桑沢デザイン研究所同窓会が、桑澤洋子先生の業績を記念して1992年に創設した「桑沢賞」は昨年、記念すべき30回を迎えました。

第1回から第30回までに、桑沢賞（本賞）をはじめ、各賞、新人賞を合わせて300名以上の方々に賞をお贈りしました。その素晴らしい受賞者の顔ぶれにつきましては、今回の同窓会 NEWS に同封の「桑沢賞 30年のあゆみ」（受賞者一覧）をご覧ください。

さて、これまで「桑沢賞」は基本的に（コロナ禍以外は）年に1度の開催でしたが、第30回を区切りとして、ここを新たなスタートと考え、
今後は2年に1度のビエンナーレ方式で開催することといたしました。
「桑沢新人賞」のみ、毎年、卒業生作品展から選出し表彰いたします。

第30回まで続いてきた「桑沢賞」を絶やすことなく、持続可能なものとするためにも隔年の開催とし、密度の濃い「桑沢賞」を、今後も長く続けていきたいと考えています。

今年は定期総会に引き続き「桑沢新人賞」の表彰式を行います。皆さまのご参加をお待ちしています。

同窓会委員 募集中

同窓会の活動の企画・運営に携わる仲間を募集しています。

ぜひ、新たな時代の同窓会活動と一緒に考えていきましょう。

ご興味のある方は、同窓会事務局までご連絡ください！



2024年5月吉日

桑沢デザイン研究所同窓会

会長 八十島 博明

第64回 定期総会開催 および 2024年 桑沢新人賞 表彰式開催のお知らせ

日時

2024年5月25日(土)

場所

JR 原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F LIFORK 原宿 LOUNGE

14:00～14:30 第64回桑沢デザイン研究所同窓会定期総会
2023年度の活動報告、会計報告、
2024年度の活動方針、
予算などの議事・報告を行います。

15:00～16:30 2024年桑沢新人賞表彰式



LIFORK 原宿 LOUNGE

2024年桑沢新人賞 (敬称略)

玉城結羽 (浅葉克己 + GOO CHOKI PAR ゼミ)

Muriel Brunet (藤森泰司 + 篠崎隆ゼミ)

増本里彩 (飯田郁ゼミ)

佐古汐里 (比護結子ゼミ)

かお (森井ユカゼミ)

荒木裕登 (藤田恭一ゼミ)

三木杏珠 (羽金知美ゼミ)

周子豪 (藤田恭一ゼミ)

三瀬凌雅 (大久保裕文ゼミ)

李慶花 (夜間 VD2A)



第63回 定期総会開催の様子

2023 (令和5) 年度 桑沢デザイン研究所同窓会 活動報告・会計報告 (速報)

2023 年 (令和5) 年度活動報告

2023 年

- 4 月 28 日 (金) 同窓会ニュース 190 号発行
4 月 25 日 (火) ~ 30 日 (日)
第 3 回九州支部展・支部会開催
5 月 27 日 (土) 第 63 回同窓会定期総会および
第 30 回 [2023] 桑沢賞表彰式の開催
(於: WITH HARAJUKU HALL)
8 月 5 日 (土) オープンキャンパスに参加、同窓会活動パネル展示
8 月 15 日 (火) ~ 19 日 (土)
夏期デザイン講座及び夏期特別講座開催
(於: 桑沢校舎)

2024 年

- 2 月 23 日 (金) ~ 25 日 (日)
卒業生作品展「桑沢 2024」に協賛
2 月 24 日 (土) 2024 年桑沢新人賞選考会
(於: アットビジネスセンター渋谷東口駅前)
3 月 19 日 (火) 桑沢デザイン研究所卒業式に出席

- 理事・委員会 8 回
夏期デザイン講座実行委員会 1 回
NEWS191 編集会議 4 回 / 取材 随時
同窓会ホームページ・SNS 更新 随時
卒業アルバム制作に協賛



同窓会活動パネル展示の様子 (オープンキャンパスにて)

同窓会役員一覧 ★新任

- 会長 八十島博明
副会長 田辺千晶 森井久寿生
理事 (会長・副会長を含む)
赤羽なつみ 稲村彰保 日下部昌子
田辺千晶 野口英明 細山歩
本田理恵 宮澤太地 森井久寿生
八十島博明 鮎内雄美
山越史洋 由良万紀子 横森美奈子
監事 大豆生田守 大槻高康

- 特別委員 近藤信一 中西元男 薬師神親彦 山田脩二
委員 新目恵 小川航司 尾形優子 (北海道支部長)
★小嶋一夫 (九州支部長) 後藤和樹
雑賀吉人 澤田昂之介 ★新保怜奈
鈴木順平 滝口未来 田代卓 高橋祐子
富野隆平 中村哲夫 畑秀樹
平林千明 ★房忍 (関西支部長) 三上司
宮畑周平 (中・四国支部長) 森井由佳 矢島裕文
★山田友香子 矢内原充志 吉田仁 ★渡辺和音

- 名誉会長 佐藤竜平 (研究所所長)
顧問 浅葉克己 (元所長)
市瀬昌昭 (元所長)
原美夫 (元同窓会副会長)
相談役 守屋秀之 (研究所事務局長)
事務局 伊草喜久江

2023 (令和5) 年度 収支・決算

(単位: 円)

収入の部				
科目	2024年度予算	2023年度予算	2023年度決算	差引残高
前年度繰越金	4,416,172	3,079,972	3,079,972	0
終身会費	10,080,000	10,080,000	10,080,000	0
受取利息	70	50	70	20
雑収入	5,000	5,000	0	△ 5,000
収入合計	14,501,242	13,165,022	13,160,042	△ 4,980
支出の部				
科目	2024年度予算	2023年度予算	2023年度決算	差引残高
広報費	2,200,000	2,000,000	1,840,052	△ 159,948
ホームページ運営費	400,000	400,000	186,690	△ 213,310
企画費	400,000	400,000	0	△ 400,000
会議費	200,000	200,000	79,399	△ 120,601
通信費	150,000	130,000	118,623	△ 11,377
事務局運営費	3,150,000	3,150,000	3,142,951	△ 7,049
事務消耗用品費	600,000	600,000	89,558	△ 510,442
総会費	1,000,000	1,000,000	421,494	△ 578,506
他団体交際費	700,000	600,000	618,395	18,395
支部費	200,000	200,000	110,118	△ 89,882
リース料・支払手数料	150,000	150,000	135,575	△ 14,425
雑費	40,000	40,000	1,015	△ 38,985
予備費	160,000	160,000	0	△ 160,000
桑沢賞寄付金	3,000,000	2,000,000	2,000,000	0
基本財産繰入	0	0	0	0
次年度繰越金	2,151,242	2,135,022	4,416,172	2,281,150
支出合計	14,501,242	13,165,022	13,160,042	△ 4,980

2023 (令和5) 年度 桑沢賞収支・決算

収入の部				
科目	2024年度予算	2023年度予算	2023年度決算	差引残高
前年度繰越金	7,155,405	7,734,257	7,734,257	0
桑沢賞寄付金繰入 (同窓会)	2,000,000	3,500,000	3,500,000	0
桑沢賞寄付金繰入 (夏期講座)	1,857,257	0	0	0
雑収入	0	0	20,000	20,000
受取利息	40	40	65	25
合計	11,012,702	11,234,297	11,254,322	20,025
支出の部				
科目	2024年度予算	2023年度予算	2023年度決算	差引残高
桑沢賞開催費合計	2,500,000	5,500,000	4,098,917	△ 1,401,083
次年度繰越金	8,512,702	5,734,297	7,155,405	1,421,108
合計	11,012,702	11,234,297	11,254,322	20,025

2023 (令和5) 年度 夏期デザイン講座収支・決算

収入の部				
科目	2024年度予算	2023年度予算	2023年度決算	差引残高
前年度繰越金	1,356,626	1,356,626	1,356,626	0
夏期講座収入	2,800,000	2,100,000	2,974,070	874,070
デザイン塾収入	0	0	28,914	28,914
受取利息	20	10	20	10
その他	0	0	490	490
合計	4,156,646	3,456,636	4,360,120	903,484
支出の部				
科目	2024年度予算	2023年度予算	2023年度決算	差引残高
夏期講座支出	1,615,000	1,760,000	1,146,237	△ 612,063
桑沢賞寄付金	1,185,020	340,010	1,857,257	1,515,547
次年度繰越金	1,356,626	1,356,626	1,356,626	0
合計	4,156,646	3,456,636	4,360,120	903,484

卒業生作品展 「桑沢2024」が 開催されました

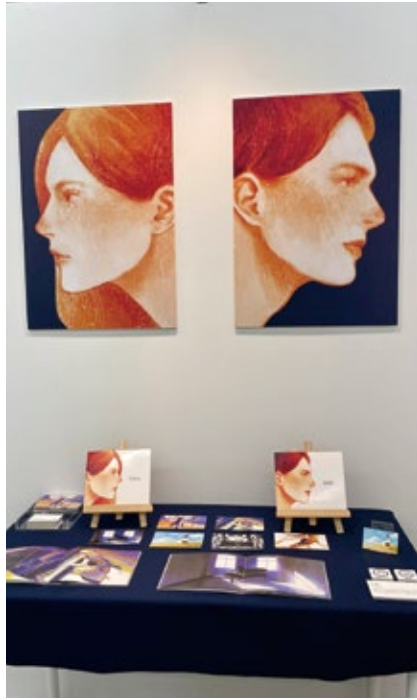
2024年2月23日（金）～25日（日）の3日間、卒業生作品展がコロナ禍の間における全ての制約を撤廃した状態で華々しく開催されました。初日と最終日は雨に降られましたが、中日は晴天に恵まれ幅広い年齢層、そして多様な国籍の方々、約3600人もの来場者で校内は始終賑やかでした。

昨年は1日の来場者数に制限があり、ネット予約が必要な上に実際に作品に触れることにも制約がありましたが、今回は完全にコロナ禍前と同等の展示状況に戻り、作品の傍に立ち積極的に制作意図をアピールする学生、またPR用に無料配布の印刷物を用意する学生も目立ちました。もちろんファッションショーも毎回立ち見席に人が溢れるほど盛況でした。また今回の特徴として、作品を制作する上での外注先や、仕入れ先を国外とする学生も見られ、言葉や距離の壁を越えてよりよい製作を目指すことが当たり前になりつつあることを実感しました。

展覧会後の3月末から、桑沢の公式サイトより各作品を閲覧することができるようになりましたので、2月に会場で見そびれた皆様はぜひ訪れてください。また同窓会では卒展出品作品の中から新人賞を選出し、5月25日（土）に原宿で行われる表彰式にて表彰いたします。ご来場の際はP02をご参照下さい。同窓生の皆様のお越しをお待ちしております。

<https://www.kds.ac.jp/others/20240327/>







記念すべき第30回桑沢賞表彰式が開催されました

第30回を迎える「桑沢賞」の表彰式&交流会が、2023年5月27日（土）に開催されました。

桑沢賞の表彰式は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年は中止、2021年はオンライン表彰式、2022年は1年繰延べという形を余儀なくされましたが、今回晴れて4年ぶりのリアル開催となりました。会場はJR原宿駅前に2021年に誕生したWITH HARAJUKUビル3FのHALLを初めて使用。明るく広々としたホワイエには、久しぶりに顔を合わせる同窓生の皆さんの笑顔がありました。

表彰式の舞台があるホールの壁面には、桑沢賞30回を記念して、これまでの本賞受賞者57名の顔写真を掲載したバナーが掲げられ、今回もイラストレーター&ソラミミストの安齋肇さん（1部49L2B）の司会により、和やかに表彰式が始まりました。



八十島博明同窓会会長の開会の挨拶の後、表彰式は新人賞、スピリット賞、地域賞、特別賞、桑沢賞（本賞）の順に執り行われ、最後に桑沢賞審査員による桑沢賞審査総評が発表されました。

表彰式終了後は、桑沢デザイン研究所の佐藤竜平所長の乾杯の音頭により交流会が開かれました。会場のあちこちで参加者の皆さんの会話の花が咲き、にぎやかで楽しい雰囲気の中、幕を閉じました。

第30回桑沢賞の開催にあたり、お手伝いいただいた皆さま、誠にありがとうございました。



第30回[2023]桑沢賞 各賞受賞者(敬称略)

桑沢賞（本賞）

GOO CHOKI PAR（グラフィックデザイナー）
渡辺和音（(株)There There 代表取締役/アートディレクター・デザイナー）

桑沢特別賞

羽原肅郎
高橋敏（アートディレクター）

桑沢地域賞

出本正彦（ファッションデザイナー）

桑沢スピリット賞

堀ノ内達也（ニット作家・編み物☆堀ノ内）

桑沢新人賞（P9を参照ください）



賞状コンセプト

浅葉克己

（2021年桑沢特別賞受賞）

日本を象徴する樹は何かと言われると、その一本には松の樹が入ると思う。500 郷里、横浜の金沢文庫に住んでいた頃、500 坪の庭の中央には松の樹がドーンと枝を広げていた。一番好きな絵はと聞かれれば、長谷川等伯の「松林図」と答える。この「松」の掛け軸を時々出して見てね。



Tシャツコンセプト

日下部昌子（1995年桑沢新人賞受賞）

桑沢の卒業生は、デザイン業界に限らず、様々な分野で活躍されていますが、桑沢で培ったフィルターを通して人々の生活や幸せを考えているとすれば、それもひとつのデザインと言えます。今回デザインを担当させていただいた桑沢賞のロゴマークは、メダルのような円形の左端がカットされて DESIGN の D となり、その中で躍動する「KUWASAWA」の文字は、各界で活躍する桑沢の卒業生を表しています。



桑沢賞

GOO CHOKI PAR

浅葉球さん (1部 H18L系 3B)、飯高健人さん、
石井伶さん (1部 H18L系 3C) 3人のグラフィックデザイナー
によって結成されたデザインユニット

言語・思考を超えた「ビジュアルコミュニケーション」を主軸とした力強く、今の時代ならではのグラフィックデザインを提案。メンバーの1人が作成したデザインに次の人がデザインを重ねるという独特の制作方法によって、それぞれの得意分野をミックスし、3人で一緒に考えて作る、他にない作品を生み出している。主な作品に、パラリンピック東京2020大会公式ポスター、グラフィックトライアル2020、渋谷スカイフワーディング、NIKELAB、ABEMA大相撲ポスター、HOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKEのアートディレクションなど。2023年のNHK大河ドラマ「どうする家康」では番組史上初の円形のロゴを手掛け話題となった。

またアートワーク作品も手掛け、新しい技法やアイデアをクライアントワークに還元すべく活動している。これまでVINYL GALLERY『BACK HOME』展、clinic『OKAO』展、中日韓美術大学紙上絵画招待展など、国内外様々な個展・展覧会にて作品を発表。作品は、パリ装飾美術館、オリンピックミュージアム、桑沢デザイン研究所にも収蔵。主な受賞歴に、One Show、D&AD、NY ADC など。



受賞のことは

浅葉球

2015年から焦らされましたが、やっと桑沢賞を受賞することができてホッとしています。次のステップに上がるともいいきっかけになりました。今後はグラフィックデザインだけではなく幅広く活動していきますのでご期待ください。最後に、最高の仲間達に出会えた桑沢デザイン研究所に感謝します。

飯高健人

素晴らしい賞をいただきありがとうございます。桑沢のみなさんの温かい愛に、

心から感謝申し上げます。

生涯続く創作人生のなかでまだまだ道半ば、半人前ではありますが、人を驚かせたり喜ばせたり、感動させられるものづくりの研究を続けていきたいと思えます。是非これからの我々の活動にもご期待ください。

石井伶

この度はありがとうございます。

たくさんの良い仲間と出会えて、楽しくものづくりをしていく中で、このような賞をいただけて本当に嬉しいです。これからも仲良く頑張ります。



桑沢賞

渡辺和音さん (1部 H16L系 3B)

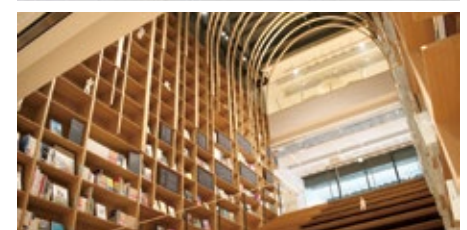
(株) There There 代表取締役／アートディレクター・デザイナー

2005年 桑沢卒業後、工藤強勝氏主宰のデザイン実験室、株式会社スーパードesign (現・株式会社ブートレグ) を経て、2018年に「There There」として独立。物の空気感を作ることを理念に、本、雑誌、ポスターなどを軸としつつ幅広いジャンルでデザイン活動を行っている。主な作品に、早稲田大学国際文学館 (通称村上春樹ライブラリー) の本棚周辺のグラフィック、サイン、特設サイトや企画展など一連のグラフィック、渋谷ミヤシタパークのホテル「sequence」のブランドロゴ、サインほかグラフィックデザイン全般を担当、雑誌「TRANSIT」のアートディレクションとデザインなど。桑沢デザイン研究所の学校案内は2021年から手掛け、2022年度版はケースから本体を引き出すとデジタルディスプレイで文字が動いているような表現でデザインの可能性を追求。この案内は国際的な賞「Creative Communication Award Best of Best 受賞」ほか国内外で各賞を受賞。



受賞のことは

素晴らしい賞をいただきありがとうございます。同窓会の皆様、推薦いただいた方々、スタッフと家族に感謝します。自分のデザインとはと悩む時期もありましたが、やりたくない事、やらない事をちりばめながら真摯に向き合うことで出てくる個性もあると考えるようになりました。このような僕に仕事を振っていただいたみなさまに感謝しつつ、一つ一つを丁寧につなげていけるようこれからも考え続け頑張ります。





桑沢特別賞

羽原肅郎さん (1部32L研)



1935年生まれ。桑沢デザイン研究所リビングデザイン科第3期生。卒業後、建築写真家の二川幸夫氏に師事した後、1959年美術出版社に入社、雑誌『デザイン』に配属。1963年から1968年まで編集長。自動車雑誌『カーグラフィック』の編集デザインに参加。同時に、桑沢では講師として「構成」を教え、東京造形大学設立と同時に助教授を務める。1974年からは建築雑誌『SD』において、国際タイポグラフィ様式を採用。その造形思考を日本語組版に導入するために多くの実験を行い、日本のエディリアルデザインに影響を与えた。デザインはもとより、編集者として、「正統」のモダンデザインをその歴史や背景も含めて紹介し、現在のデザインブームの礎を築いてきた。

受賞のことは

もう80年もやってきましたが、ほとんど何もやっていません。まあ、真面目にはやってきたと思うんですけど。ですから、受賞のご連絡をいただいた時は本当にびっくりしまして、最初はお断りをしたのですが、でもいただくことにいたしました。ありがたいと思っています。

若い人たちに向けてのメッセージ

若い人には、現状に満足せずとにかく新しいことに挑戦して欲しいですね。

新しいことをやろうとすると、誰もやってないから恥ずかしいっていう気持ちがあるんですね。でも、そこから逃げることなく、思い切ってやってほしいと思います。



桑沢特別賞

高橋敏さん (1部43L3PK)
アートディレクター



受賞のことは

「人生って捨てたもんじゃない」
先日、思いがけなく桑沢特別賞受賞の連絡をもらった。
アナログからデジタルへ、がらりと変わった世の中を駆け足で走ってきた75年だった。新しいものの好きで物欲だらけの自分。横浜生まれで気がつくとも頭の中

に子供の頃に聞いた美空ひばりの唄が流れてくる。

そんな過去と未来に宙吊りにされた僕の人生に裏付けをいただいたようで、思いのほか嬉しい自分に気がついた。さてこれから、どうしよう。

桑沢賞 審査総評



下川一哉さん
デザインプロデューサー
ジャーナリスト

桑沢賞の審査会は、毎回、審査員の熱い議論で進行していく。議論は、何が桑沢賞にふさわしいか？桑沢賞とは何か？という原点に立ち戻るケースが多い。今回も同様だった。我々審査員が立ち戻るのには、本校の創設者である桑澤洋子が残した「デザインは個の問題ではなく、衆の問題であり、社会の問題である」という言葉である。この言葉に本校の存在意義が集約されており、桑沢賞の審査基準もここに極まる。桑沢賞を通して、社会にこうしたデザインの使命を伝えることも、本賞の役割なのである。

下川さん(2015年より桑沢賞審査員)は2024年2月にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



眞田岳彦さん (1部44L2A)
博士(美術)、女子美術大学教授
専門は衣服造形

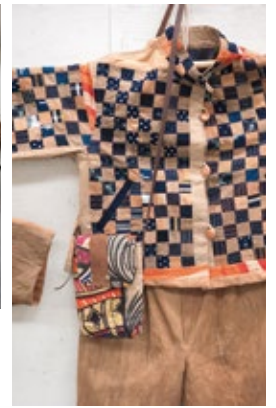
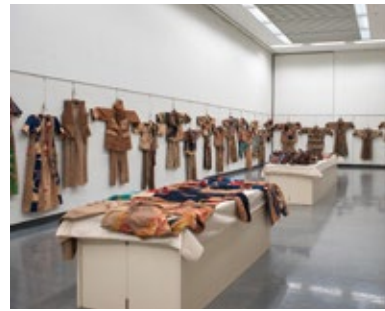
桑沢賞30周年を機に、私たちが桑沢デザイン研究所で学んだデザイン・造形教育理念の原点に立ち振り返り検討した。一つは桑澤洋子先生がおっしゃった「概念崩し」、もう一つは「産業・経済」そして「教育・社会」双方の領域に寄与してゆくこと。今回の受賞者2組はこれらを象徴する素晴らしい活動をされている。2組の受賞が相まって、本学の教育理念、桑沢賞本賞の意味・意義・価値が浮かび上がり、同窓生の私たちが忘れてはいけない大切な事を示していただけた。2組の受賞者に改めて心からの御祝を申し上げます。



桑沢地域賞

出本正彦さん (1部 44D3B)
ファッションデザイナー

1944年生まれ。1970年桑沢デザイン研究所ドレスデザイン科卒業。1973年オートクチュール系のデザイナー細野久氏に師事。コシノ・ジュンコ、高田賢三、山本耀司などが受賞し、当時ファッションデザイナーの登竜門と言われた装苑賞を1975年の第37回に受賞。1977年より9年間、桑沢のドレス科の専任教師を務めた。1987年広島に帰郷しアトリエ出本を開設。広島近辺のギャラリー、福屋や三越などの百貨店で個展を開催し作品を発表。30年前より柿渋染めに魅せられ、古い着物をはじめ、大漁旗や鯉幟、藍染など古い布との組み合わせ、ミシン刺繍などニードルワークを加えて、オンリーワンの服やバッグを製作。2022年広島県立美術館で個展を開催。



受賞のことば

桑沢地域賞ありがとうございました。

私は広島県の志和町別府と言う山里に、アトリエを作っています。柿渋染をするためです。柿渋は臭くて街中では出来ません。

それと自然の中の生活が好きです。暮らしていると不思議にアイデアがわいて

きます。東京では気づかなかった素材、藍古布、柿渋に出会いました。地方ならではのです。

1日1作品、年間365点を目標に作品を作っています。

これからもよろしくお願いします。



桑沢スピリット賞

堀ノ内達也さん (1部 H02 L2A)
ニット作家・編み物☆堀ノ内

1967年生まれ。桑沢卒業後、デザイン事務所勤務を経てフリーのグラフィックデザイナーとなり、2013年頃よりニット作家「編み物☆堀ノ内」として活動を開始。現在の活動のメインは、家庭用の編み機を使ってハンドメイドで作る一点物のニットの製作。百貨店やギャラリーなどで定期的にパーソナルオーダー会を行い、個人の方からオーダーを受け、数々のオーダーメイドニット作品を編み出している。自ら掲げるキャッチコピーは「狂い編みサンダーニット」。感動的なまでに精巧でインパクトのある、驚きの作品たちのモチーフは、ロックシンガーや映画スター、スポーツ選手などの時代を象徴する人物から、映画の1シーンやレコードジャケットまで、バラエティに富んでいる。



受賞のことば

素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。

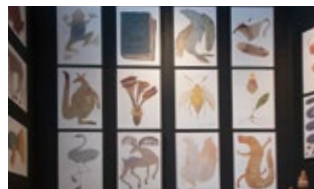
今、私は55歳です。桑沢を卒業後、ずっとグラフィックデザインをやっていたが、45歳過ぎに突然編み物をやろう！と思い立ち、今に至ります。グラフィックデザインで褒められることはほとんど

なかったのですが、編み物を始めたら、いろいろな方から褒めてもらえるようになり、驚いています。さらには母校の同窓会から賞までいただくなんて、人生何が起こるかわかりません。賞に恥じないよう頑張ります。

桑沢新人賞 卒業生作品展「桑沢2023」において、優秀な作品を発表した学生に対して贈られます。



銭偉松さん (浅葉克己ゼミ)
作品名: プラスチックウ



宇佐美寿々音さん (浅葉克己ゼミ)
作品名: Laugher



森咲夏さん (工藤強勝ゼミ)
作品名: yuragi



神尾なつみさん (森井ユカゼミ)
作品名: 残飯おぼけ



三俣悠さん (藤田恭一ゼミ)
作品名: RECEPTOR



大澤楓さん (藤田恭一ゼミ)
作品名: 星降る夜



柳田美咲さん (藤田恭一ゼミ)
作品名: KOTAN



水野沙耶さん (夜間 VD2A) 作品名: blue pottery, 宝石チョコレートブランド Z2

大辻清司先生と縁のある2つの写真展 同時期開催



牛腸茂雄 写真展「なんでもないものの変容」から

写真展「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容 [瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄] が渋谷区立松濤美術館にて開催され、本校で講師をされていた大辻清司先生と、その教え子である牛腸茂雄さん（1部42L3写真）の作品が展示されました。1930年代に発足した「前衛写真協会」の代表的人物であった瀧口修造氏に影響を受けた大辻先生と、教え子であった牛腸さんは、目まぐるしく移り変わる時代に翻弄されつつも、日常・現実を見つめ直し、数々の名作を生み出しました。会場には日常の中に潜む前衛を映し出した作品が、当時の雑誌や記事などとともに展示されました。それはまさに彼らが見た当時の景色そのものであり、日常に潜む何気ない風景から、彼らなりの時代への反発や苦悩が窺い知れ、

儚くも力溢れる前衛芸術が、そこにはありました。

素晴らしい作品を世に送り出した牛腸さんは、2023年に没後40周年の節目を迎え、これに合わせ、同時期にもう一つの写真展「現代ストレート写真」の系譜が恵比寿MEMにて開催されました。出展作家は潮田登久子さん（1部38L3写真）、牛腸茂雄さん、佐治嘉隆さん、関口正夫さん、三浦和人さん（1部42L3写真/4名共）の5人で、それぞれ先述の大辻清司先生に桑沢で教養を受けていました。写真は体制批判と闘争を展開していた当時の評論家に批判されるも、その身近でストレートに表現される作品には大辻先生のスタイルが脈々と受け継がれています。

そしてある時代の桑沢に在学した学生、助手、教師たちとの不思議な縁を生み出し、時が流れた今、この展示が構想、企画されました。

「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容
2023.12.2～2024.2.4 於：松濤美術館

「現代ストレート写真」の系譜
2023.12.6～2024.1.28 於：MEM



三浦和人 写真展「現代ストレート写真の系譜」から



MEM 展示風景。「現代ストレート写真」の系譜 展覧会カタログは2024年4月下旬発売予定です。（出版・MEM）
予約販売 MEM TEL.03-6459-3205 mail:art@mem-inc.jp http://www.mem-inc.jp

浜田桂子さん 新作絵本『「はい」「いいえ」 ほうこく』（理論社）の原画展

2021年桑沢スピリット賞受賞の浜田桂子さん（2部43基造C）の新作絵本の原画展が2023年11月20日～12月2日、表参道Pinpoint Galleryで開催されました。浜田さんが国内外で絵本の読みきかせな

どで出会ったこどもたちが、話してくれたこと、つぶやいてくれたことを中心に絵本の形にしたものです。こどもたちが安心して大きくなるために「いるもの＝はい」「いないもの＝いいえ」をこどもたちが報告



しらないことを みたり きいたり
たいけんしたり するところ。



こころに ささっちゃう とげのことば
いたかったね もう だいじょうぶだよ。



していく絵本です。絵の中から、こどもたちの素直な気持ちや、願いが聞こえてきます。そんなあたりまえのことを見過ぎてはいけません!という、浜田さんからのメッセージを感じました。

『「はい」「いいえ」 ほうこく』
浜田桂子 理論社
(P22 出版のお知らせ参照)



下田昌克さん 銀座・和光にて 新年を祝う龍のディスプレイ

2024年辰年元旦、東京銀座・和光のショーウィンドウに、新年を祝う白い龍が出現し、大きな話題を呼びました。

干支にちなんだこの龍（辰）のディスプレイは、アーティスト 下田昌克さん（1部63L研GD）の新作。ウィンドウいっぱいに浮遊する龍の姿という圧巻の造形は、キャンバス生地をミシンや手で一つひとつ縫い合わせ、膨大な手間をかけて生み出されたものです。

世界を旅しながら絵を描き、画家として活躍する下田さんは、ライフワークで恐竜のかぶり物をキャンバス生地で作りを続けてきました。

その下田さんならではのユニークな造形による今作品は、まるで巨大な龍のか



ぶり物をかぶった雪男が、宙を舞う龍を自在に操っているようにも見えます。

トゲ、キバ、ツノ、800枚にもおよぶというウロコなど、白い生地で丁寧に作られた一つひとつのパーツのディテールが積み重なって命を宿した龍は、ウィンドウから今にも飛び出しそうな迫力で見ると目を奪います。

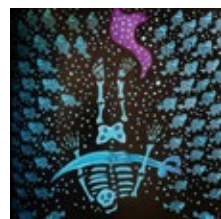
海外からの観光客も多い銀座4丁目の交差点を行き交う人たちが、思わず足を止め、スマホのカメラを向けていました。

絵本から立体、舞台美術・衣装まで創作活動の幅を広げ、龍のように勢いのある下田さんから今後も目が離せません。

Check it!

下田さん作の絵本『死んだかいぞく』が、The Bologna Children's Book Fair（伊ボローニャ 子供の本のアワード）2024で海のテーマ部門賞を受賞！ この絵本を原作とした音楽劇が7月開幕予定。下田さんが自ら舞台美術、衣裳、小道具デザインを手がけます。（脚本・演出：ノゾエ征爾/主演：山内圭哉/於：埼玉・彩の国さいたま芸術劇場小ホール）

『死んだかいぞく』
（ポプラ社の絵本）
の原画より



林まさのりさん 「林まさのりフェルトワーク展 again」

林まさのりさん（1部47L2A）の「林まさのりフェルトワーク展 again」が2023年11月22日～27日、自由が丘のキャンパスギャラリー自由が丘で開催されました。洗練さ

れた色合いのユーモラスな表情のフェルトで作られた人形たち。それは今にも動き出しそうな、何か話しかけてきそうな、FERT FELLOWSの創造の世界でした。

制作者の林さんは長年イラストレーターとして活躍していますが、フェルトに出会い、フェルトの風合いや色、立体にしたときの面白さに引き込まれたそうです。芯を使わない独自の手法で、表情や動きをイメージしながら一針ひと針、入念に刺していくフェルトワーク。ユニークなフォルムと繊細な色合いが魅力の“HAYASHI WORLD”でした。



「倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙」展

インテリアデザイナーとして活躍した倉俣史朗さん（1部31LA/1991年に逝去）の展覧会が、2023年11月18日から翌年1月28日、世田谷美術館で開催されました。

ミス・ブランチー造花の薔薇を透明アクリル樹脂に封じ込めた椅子。それに代表される遊び心ある作品がどのように生まれたか、発想の源となった夢日記（無意識の時に浮き上がるアイデアを大事に書きとめたスケッチ）とともに、時系列を追って触れることができました。

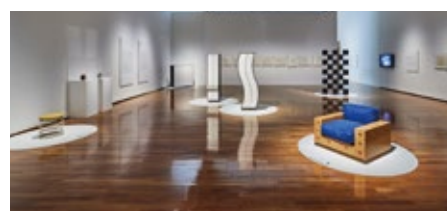
その展示は、心の奥底の光に向かってダイブするような素晴らしいものでした。

重力や時間の制限を飛び越した2次元のスケッチを、一見家具にならなそうなガラスやアクリル素材で3次元に立ち上げた数々の作品に、感動です。倉俣さんの作品は、私たちの心に、生きる中の悲喜



（上）夢日記とミス・ブランチ
（右）引き出しを中心とした初期の作品群

こもこも
交々な出来事から生まれた心の^{おり}瀬にひるまず、自分が放つ光を見つめ続ける勇気を与え続けているように感じます。



撮影：清忠之

伝説のホテル イルパラッツォが 34 年の時を経て蘇る 内田デザイン研究所がリ・デザインを担当

デザインホテルの先駆けとして1989年福岡に誕生したHOTEL IL PALAZZOが、34年の時を経て、およそ2年をかけて「Re-Design」され、2023年10月1日にグランドオープンしました。

HOTEL IL PALAZZOは、内田繁さん（1部40 L2C/2016年に逝去）がアートディレクション、インテリアデザインを手がけ、20世紀を代表するイタリア人建築家アルド・ロッシ氏が建築を担当。

グラフィックデザインは田中一光氏。そのほかエットーレ・ソットサス氏、倉俣史朗さん等国内外の気鋭のデザイナーが参画し注目を集めました。

その後売却され、リニューアルを重ねて創業時とは違うコンセプトの施設に変わっていた当ホテルを2015年に現オーナーが取得し、再生プロジェクトがスタート。

リ・デザインを担当した内田デザイン

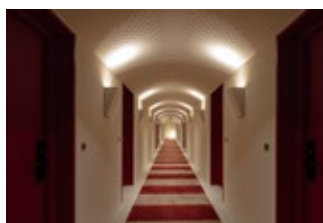
研究所は、内田さんがロッシ氏と共に築いた世界観と価値観、その本質を継承し、息の長いデザインを目指したといいます。建築はそのまま残し、空間はかつてのデザインを引用しつつ、現代の価値観を加えて再生しました。

未来に継承すべき偉大なデザイン遺産ともいえるHOTEL IL PALAZZO。その新たな歴史は始まったばかりです。

内田デザイン研究所 <https://www.uchida-design.jp/>



撮影：浅川敏

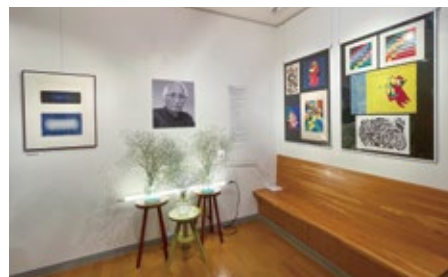


（左）ホテル外観 （中上）レセプションカウンター&バー
（中下）客室フロア廊下 （右）ラウンジ「EL DORADO」

遠藤享さん 旭川美術館にて「アートとデザインの空間」展 開催 ご逝去され追悼展が開かれる



「アートとデザインの空間 遠藤享展」(旭川美術館)の様子

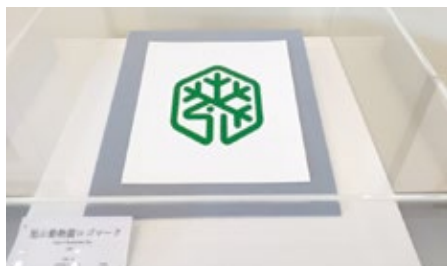


銀座の養清堂画廊での「遠藤享 追悼展」(上・下)

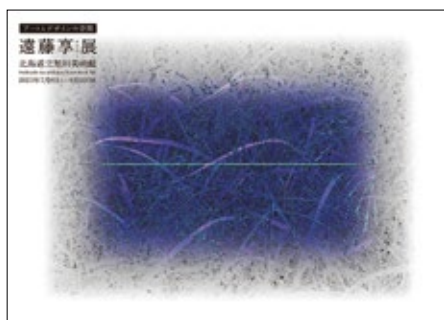
グラフィックデザイナー、版画家として活躍された遠藤享さん(1部36L3GD)が、若き日に旭川で前衛運動に参加し、デザイナーとして頭角を現し、版画の世界に先駆的表現を確立した関係から、北海道立旭川美術館にて2023年7月8日から9月10日の会期で、「アートとデザインの空間 遠藤享展」が開催されました。

遠藤さんは、1933年山梨県生まれ。武蔵野美術大学デザイン科中退後、1962年桑沢デザイン研究所グラフィックデザイン研究科卒業。版画家、グラフィックデザイナーとして自然をテーマに硬質で詩情あふれる世界を確立し、オフセットリトグラフの手法でデジタル版画の可能性を導きました。作品はドイツ、ユーゴスラビア、ブルガリア、フィンランド等の世界各国で賞を受けており、大英博物館、サンパウロ美術館を初め、多数の美術館に収蔵されています。

1998年紫綬褒章受章。2010年桑沢特別賞受賞。



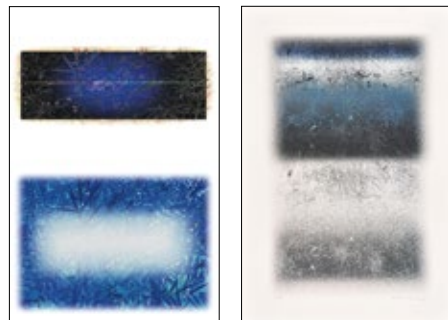
旭山動物園のロゴマーク



展覧会会場には、遠藤享世界とも言える物体の存在感と平面におけるイリュージョンとを巧みに利用して構成された画面や、不思議な雰囲気伝える空間を作り上げた作品群が並び、その多彩な表現の活動の軌跡が紹介されていました。

のちに遠藤さんのご子息の遠藤悦郎氏よりご連絡いただいたことですが、遠藤さんはこの展覧会の準備に奔走されましたが、開催の直前に体の異変を感じて入院されました。その後ずっと入院治療を受けましたが、展覧会には顔を出されないまま2024年2月10日に90歳の生涯を閉じられたとのことでした。

そして長年にわたって遠藤さんのグラフィックアート(版画)個展を企画してきた東京・銀座の養清堂画廊のご厚意により3月9日・10日の2日間「遠藤享追悼展」が開催され、桑沢卒業生をはじめ多くの入場者が訪れ、作品を通じて遠藤さんのご活躍を再認識していました。



旭川美術館での展覧会のための新作。これらが遺作と なってしまった



写真フィルムとアナログ製版による初期の作品。その後90年代からデジタル表現でのパイオニアとして活躍

大崎メグミさん

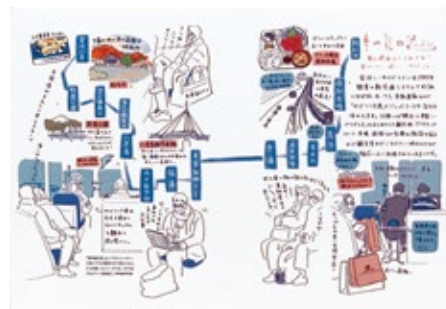
『鉄道 車内絵日記』ができるまで。』の個展 & トークイベント



大崎メグミさん（1部H24VD3A）のイラストルポ『鉄道 車内絵日記』*の発売を記念したイベントが都内で数回にわたり開催。個展ではスケッチの原画が、トーク

イベントでは同書ができるまでのエピソードが披露されました。

桑沢在学中から電車内の人々をスケッチしていたという大崎さん。路線ごとに「車内絵日記」を作ってみませんか？との編集者さんの提案から、雑誌『旅と鉄道』で2014年から連載を開始。様々な鉄道の乗客スケッチを続けるうちに、それぞれの路線の個性の違いに気がつき、人間観察から鉄道旅の面白さへとテーマが広がりました。東京都内の鉄道をはじめ、関東・関西・ギリシャの鉄道、その



他多くの路線へと。まだまだ乗客描写の線路はどこまでも続きます。

*『鉄道 車内絵日記』：2023年3月23日発売
日本各地の鉄道車内の人々を描いたイラストルポ「車内絵日記」（2014年3月号～雑誌『旅と鉄道』で54回にわたり連載）を『鉄道 車内絵日記』と名前を改め1冊にまとめた。（P22 出版のお知らせ参照）

ニシイズミユカさん イラストとエッセイを連載

広告、書籍出版、個展開催やご自身のファッションコーディネートSNSでの発信など幅広く活躍するイラストレーターのニシイズミユカさん（1部H25FD3F）のイラストとエッセイ「都電で揺られる ニシイズミユカの喫茶備忘録」が都営交通のフリーペーパー「さくらたび。」に連載されています。

ご自身も喫茶店巡りが趣味であるニシイズミさんによると、「イラストについてはテーマカラーを先に決めて、引き算をしていくイメージで色数を絞って制作」「エッセイについては、個人的にときめいた、魅力を感じたお店のポイントを分かりやすく簡潔にまとめる」ことを心掛けて制作されているそうで、伝えたいポイントを際立たせ、分かりやすく伝えるというデザイン思考は両者に貫かれています。

一方、ページ冒頭に登場する「額絵」を描く際には、橋の近くにあることが印象的なお店ならば橋をイメージした柄を描き込む、など毎回異なる味わいに仕上がっています。

細やかな遊び心に溢れ、写真とは一味違うイラストならではの魅力を感じられる連載です。



「さくらたび。」

都内で唯一残る都電の沿線のレトロな魅力を紹介する季刊誌。荒川電車営業所、都営地下鉄各駅（一部の駅を除く）、日暮里・舎人ライナーで無料配布しているほか、都営交通のWeb、Instagramとも連動している。



長坂ビショップ大山さん 游刻展



無類の猫好き女優 富沢 亜古氏の游刻



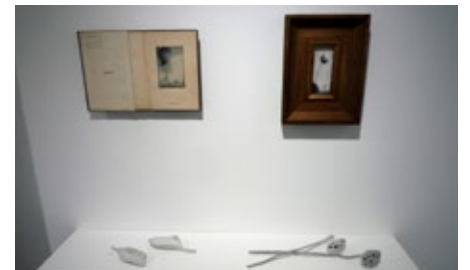
プロレスラー藤波辰爾氏のデビュー50周年の游刻「飛龍50」

2023年夏期特別講座の講師をつとめた長坂ビショップ大山さん（1部48L3ID）の游刻展が、横浜のGALLERIE PARISで開催されました。2019年より各地で個展を開催していますが毎回、医師、華道家、嘶家、格闘家や料亭の亭主など游印を依頼する方の職業は様々です。彫られた印を観る時、その方々の背景を垣間みることが出来るのが楽しみです。游刻は堅苦しい証明の印ではなく、もっと軽く、楽しいその人のアイデンティティを伝える「しるし」であると、ビショップさんは語っています。 <https://yukoku-taizan.studio.site>

親子で個展開催 今井雅洋＋今井瑠衣子 [二人展]

グラフィックデザイナー、写真造形家として活躍する今井雅洋さん（1部48L3GD）と長女であるガラス造形作家の今井瑠衣子さん（多摩美術大学卒）の2人による個展が、2024年1月9日から21日までで東京・人形町のJINEN GALLERYで開催されました。この展示は、父の写真造形作品と長女のガラス造形作品を同一空間に展示したことによりお互いの作品の持つ特徴に呼応し合うという試みで、知的でクールな展示となりました。

瑠衣子さんは初めてとなるこの展示について、「父の作品の根底を支える写真と私のガラス造形との共通点は、光をとらえてかたちにすることだと考えます。色彩を排し、澄んだ反射の中で対象を作品へと昇華させるという点で、たがいの作品は良く似ています。父と私の作品を同一の空間で展示することで自分自身の造形への姿勢を改めて考える良い機会となりました」と語っていました。



佐治良太郎さん「猫との時間」銅版画展示・販売

佐治良太郎さん（1部49L3ID）の銅版画の展示・販売が横浜馬車道のアパホテルリゾート1Fのhaishopで2月の1ヶ月間行われました。佐治家の愛猫メイと過ごす時間の中から切りとられた、愛猫ならで

はの表情やポーズが印象に残りました。また銅版の原版から精巧なテクニックも見ることができました。銅版画のほかトートバッグやマグネットなども販売されていました。



<https://spooncoco.wixsite.com/saji-etching>



岡田友香梨さん 台湾国際グラフィックデザインアワード 2023 で金賞、 南澤詩音さんとの共同作が優秀賞受賞



「黒猫庵」 DESIGN, TEXT: 岡田友香梨
ART DIRECTION, DESIGN: 高谷廉
PHOTO: 少路昌平
PRINT: ショウエイ、啓文社 CLIENT: 長谷川僚

岡田友香梨さん（2部2019VD2A）が手がけた蔵前の蕎麦屋「黒猫庵」のビジュアルアイデンティティ（VD）が、台湾国際グラフィックデザインアワード2023で金賞を受賞。また、岡田さんと南澤詩音さん（2部2021VD2B）が共同でデザインしたクラフトジン「Terroir A（テロワール A）」のパッケージが優秀賞を受賞しました。岡田さんと南澤さんは、

夜間部の授業「アドバタイジングA・B」を担当している高谷廉先生の指導を受けながら、それぞれ独自のデザインスキルを磨いてきました。その成果として、これらのデザインは国内外で高い評価を得ました。

「黒猫庵」のVIは、蔵前の蕎麦屋らしい伝統とモダンなアプローチが絶妙に融合され、魅力的なデザインとなりました。

「Terroir A」は、蔵元の土壌へのこだわりが感じられる商品名を、強く印象付ける力強さと繊細さが混在したタイポグラフィとしてデザインされました。



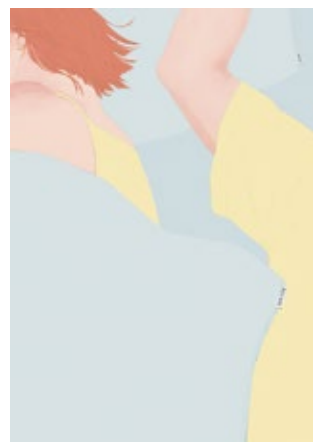
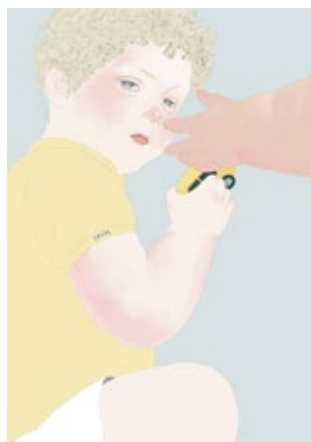
「Terroir A」 DESIGN: 岡田友香梨、南澤詩音
ART DIRECTION, DESIGN: 高谷廉
PHOTO: 加藤アラタ、少路昌平
PRINT: 美鎧ワタナベ CLIENT: 本田商店

小松はるなさん JAGDA 国際学生ポスターアワード 2023 で金賞を受賞

2023年11月29日から12月11日にかけて、国立新美術館で開催された「JAGDA 国際学生ポスターアワード2023」で、小松はるなさん（夜間部ビジュアルデザイン専攻2年在校生）が金賞を受賞しました。

審査員は国内外の著名なデザイナーで構成され、世界21の国と地域から多数の応募がありました。選考はオンライン審査2回とポスター実物審査で行われ、3122作品の中から185作品が選出されました。今年のテーマは「share」でした。

小松さんは制作意図として、「このテーマを考えている時に、子供の頃は、よく先生から『シェアすることは人を思うこと（Sharing is caring）』と言われていたことを思い出しました。もの、空間、体験、



感覚、感情をもシェアしたいという気持ちは人間的な行為であると同時に、しながら大人になっていくと心からシェアしたいと思う相手が少なくなる事実に直面しました。作品には、その『ここにしかない』

無意識な感情を表現したつもりです。」と語っています。

この受賞は、彼女の将来の活躍が期待される一方で、グラフィックデザインの進化を促す重要な一石となりました。

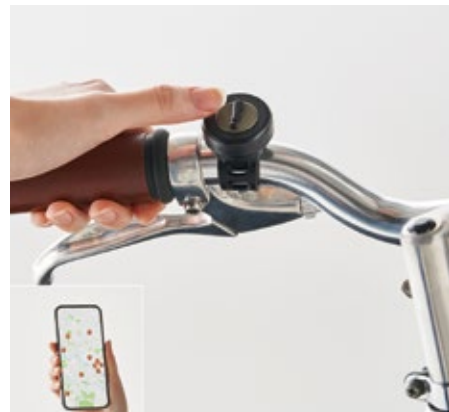
中山大暉さん

SHACHIHATA New Product Design Competitionでグランプリを受賞

中山大暉さん（夜間部プロダクトデザイン専攻1年在校生）が、16th SHACHIHATA New Product Design Competitionにおいてグランプリを受賞しました。これは、商品化を前提にしたプロダクトデザインを求めるコンペティションで、全1287作品の中から選ばれました。今年のテーマは「思いもよらないしるし」でした。

中山さんの作品「Find!」は、出会いの瞬間の「お！」を記せるデバイス。自転車

の移動中に会おう、いい感じのカフェ、素敵な景色など、心が揺さぶられた瞬間に「！」ボタンを押すだけで、急いでいても両手がふさがっていても、連動するアプリ上でその場にしろしを残せる。審査員は実装可能性や使用感に注目し、自転車ハンドルへの内蔵も期待されています。この斬新な発想が評価され、グランプリを獲得し夜間部プロダクトデザインの優れた成果が国際的に認められました。



Yun Zhuさん

Pentawards 2023で最優秀学生賞を受賞

朱 賛（Yun Zhu）さん（1部2021VD3B）が手がけた「Muety」が、世界的なパッケージデザインコンペティション「Pentawards 2023」の学生部門でNxt-Gen Awardにて最優秀賞を受賞しました。毎年、ペンタワード国際審査委員会は、各カテゴリーから優れた学生作品を厳選し、NXT-GEN賞を贈っています。朱さんの作品は、多様性と活力を象徴するキノコからインスピレーションを得ています。

白いグラデーションカラーが清潔感と透明感を醸し出し、製品全体の視覚的魅力を一層引き立てています。



花島平さん

モダンアート展で優秀賞受賞 / 音楽とコラボレーション

花島平さん（1部49L3ID）が2023年モダンアート展で優秀賞を受賞。2021年にも同賞を受賞した作品と、各作品をモチーフにした動画で2023年10月「美術と音楽のコラボレーション」に参加。マリンバ奏者・吉岡考悦さん作曲のマリンバ演奏とコラボしました。艶消しのアクリル板を重ね、影の表情を楽しむ「ニューヨーク影」（2023）は、曲をバックに摩天楼が幻想的に写し出され、ミラーとハーフミラーのモビールの作品「白と黒のエチュード」（2021）は、マリンバの音と共鳴して、より動きの面白さを味わえるものとなりました。



2021年モダンアート展優秀賞受賞作品「白と黒のエチュード」



2023.10.3 東京都美術館講堂にてコラボレーション



2023年モダンアート展優秀賞受賞作品「ニューヨーク影」



コラボレーションの動画がYouTubeで公開されています。ぜひご覧ください！

多様な分野で活躍する同窓生

桑沢で学んだことを活かすのはデザインの分野だけではありません！

桑沢スピリッツを発揮して、映画、小説、スイーツ、アートの各分野で頭角を現す、

いま最も旬な同窓生たちをご紹介します。

映画監督

大美賀均さん

初監督映画が公開中／主演映画が話題に

大美賀均さん（1部H24SD3E）の初監督作『義父養父』が、2023年12月15日より東京をはじめ全国で順次上映されています。この映画は、大美賀さんが、友人の女性の「実母の5人目の夫（義父）の双子の兄のもとに養子に行く」という実体験をもとに脚本・監督を手がけた中編作品。東京と熱海を舞台に撮影された映像は、美しいカットで構成され、複雑な人間関係を映し出しながら、不思議な

空気感を放ちます。

桑沢在学中はスペースデザインを専攻していた大美賀さん。卒業後、ある映画監督と知り合ったのを機に映画制作に関わるようになり、現在は主に演出部、制作部として活躍しています。

2023年9月には、大美賀さんが主演を務めた濱口竜介監督作品『悪は存在しない』が、第80回ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞（審査員グランプリ）を受

賞し、脚光を浴びました。もともとは、制作で

ご縁のあった濱口監督のシナリオハンティングにドライバーとして参加。その流れの中で突然、濱口監督から主演に抜てきされ、見事その大役を果たした大美賀さん。「色々なご縁が繋がって今がある」と話します。

これからも地道に映画を撮り続けていきたい、同窓生の皆さんにも自分の映画をぜひ観てほしい、と語る大美賀さんに、今後も注目です。

『義父養父』の制作には4名の桑沢卒業生が協力しています。

スチール撮影：草野庸子さん（1部H26VD3C）

題字・宣伝美術デザイン：金本紗希さん（1部H24VD3A）

WEBデザイン：有本誠司さん（1部H23VD3A）

制作：中村桃子さん（1部H24VD3A）



映画『義父養父』
監督・脚本：大美賀均
2023年12月15日より
全国順次公開



映画『悪は存在しない』
監督・脚本：濱口竜介*
主演：大美賀均
第80回ヴェネツィア国際
映画祭銀獅子賞（審査員
グランプリ）受賞
2024年4月26日より
全国順次公開
*濱口竜介監督：「ドライ
ブ・マイ・カー」でアカデミー
国際長編映画賞受賞

小説家

逢崎遊さん

第36回小説すばる新人賞受賞

逢崎遊さん（2部H30VD2B）が、『正しき地図の裏側より』*1で、2023年度の小説すばる新人賞*2を受賞しました。

高校生の頃から小説を書き始めたとい

う逢崎さん。ものづくりに興味があり、桑沢ではビジュアルデザインを専攻しましたが、在学中の2017年に同賞、小説すばる新人賞で最終候補に残ったのを機に、小説家になると決心。それから書き続け、今回その6年後の快挙となりました。

逢崎さんは、小説を書く時に、デザインの時に使っていた脳の使い方をしている時があると語ります。「良いデザインには余白が多い。桑沢で余白を作ること

受賞作『正しき地図の裏側より』は、逢崎さんの見事な描写

と思いもよらない展開が、読者の想像力を掻き立てぐいぐい惹き込む感動作となりました。早くも2作目が待ち遠しいです。

*1) 衝動的に父を殴り倒して故郷を飛び出した青年が、出会いと別れを繰り返して過酷な現実を乗り越えていく。社会から切り離される圧倒的な絶望と、心と心が深く繋がるやさしさを描いた感動のデビュー作。

*2) 小説すばる新人賞
集英社が主催する「小説の世界に、常に新しい風を送り込む」文芸誌『小説すばる』が公募する新入文学賞



撮影：藤澤由加



『正しき地図の裏側より』
逢崎遊
集英社
(P22出版のお知らせ参照)

テキスタイルからパティシエの世界に転身

世田谷区等々力にある「PÂTISSERIE ASAKO IWAYANAGI」には、五感を満たす特別な時間を求めて、遠方や海外からもお客さんが訪れます。この店のオーナーシェフパティシエールは、ドレスデザイン科出身の岩柳麻子さん（1部H11D研C）。

桑沢在学中、染色家を目指していた岩柳さんは、課題制作の材料費を稼ぐため飲食店でアルバイトを始めたところから、食の世界に興味を持ち始めた

といいます。卒業後テキスタイルの仕事から転身、パティスリーなどで経験を重ね、2015年に「PÂTISSERIE ASAKO IWAYANAGI」をオープンしました。

何かを表現して作り、多くの方に見て喜んでもらいたい。工程の長いテキスタイルに比べ、作った瞬間から劣化が始まり食べて無くなるという飲食のスピード感が自身の性格に合っていたこと。また、季節ごとに新作を発表したり、その中から量産できるラインを作るという流れも



「LA LISTE 2023」の授賞式にて

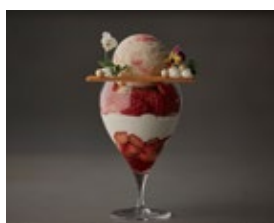
ファッションで学んだことであり、何より桑沢で沢山の課題をこなしたことが、今に活きているそうです。

美術館のようにしたかったという店内は、無機質なグレーで統一された空間にアーティスティックなパフェやケーキが引き立ちます。そんな岩柳さんの審美眼が評価され、2023年、フランスのレストランガイド「LA LISTE」にて、クリエイティブなパティシエに贈られる特別賞が授与されました。

ここ数年で、店舗拡大とともに海外からの依頼も増えているという岩柳さんの今後の活躍が楽しみです。



完全予約制の人気メニュー「パルフェビジュール®」（左）のほか、季節ごとに開発される商品



グレートーンに揃えながらも、様々なマテリアルで成り立つ店舗空間

ダンボールアーティスト

オダカマサキさん

TV チャンピオン 3 優勝

2020年まで夜間部プロダクトデザイン専攻の非常勤講師をしていたオダカマサキさん（1部H09L研ID）は、ダンボールをアルコールで湿らせて美しい曲面や細かいディテールを自由自在に造形するという「捏ねる」技法を駆使しています。幻獣や身近な生き物をモチーフに、ダン

ボール素材の限界を超える作品を追求。自身の造形作品の制作・発表だけではなく、書籍やワークショップを通して工作の楽しさを子供達に伝える活動にも尽力し、多方面からその活躍が注目されているアーティストです。

2023年12月にはTVチャンピオン3「ダンボールアート王選手権」に出演し優勝しました。2024年は書籍「オダカマサキ ダンボールアートワークス2」を上梓し、ダンボールアートの基本から、スナップボタンによって動かしたりパーツ交換をして遊べる作品を紹介しています。立体造形の分野を志す学生、そして趣味や仕事に活かしたい社会人にとって



『オダカマサキ
ダンボールアートワークス2』
新紀元社
(P22出版のお知らせ参照)



『麒麟〜KIRIN〜』（300×300×450）
獣類の長としての威厳と迫力を造形。神獣の伸びた首は龍に成る途中にも見える。

も必読の一冊です。

（記：同窓会委員 森井ユカ／TVチャンピオン「粘土細工王選手権」優勝）

夏期デザイン講座が復活しました

丸3年の間休止していた、桑沢同窓会主催の夏期デザイン講座が、2023年8月15日（火）～19日（土）に再開され、「デッサン」「色彩構成」「造形の基礎」の3つの基礎科目にプラスして、特別講座2講座（毎回内容が変化する）で開催されました。例年の開講日数は10日間

でしたが、2023年はまだコロナ禍の余波もあり、コンパクトに半分に縮めた5日間の開催でした。今回も桑沢を目指す方、またデザインに興味があり仕事に活かしたい方など、それぞれの目的をもったたくさんの方々にご参加いただきました。

3つの基礎科目は5日間のコースに

なっており、初心者・経験者どちらの方々にとっても段階的に力が付いていく構成です。最終日の講評では全員でその経験を共有するという、リアル講座ならではの体験をしていただきました。

一方、特別講座では游刻作家・長坂ビショップ大山さんによる手彫りの石印『游刻』を制作するワークショップと、漫画家のおぐらなおみさんを迎え、社会人美大生の日常を語っていただくトークイベントが企画され、好評のうちに幕を閉じました。

本年も桑沢同窓会ならではのデザイン講座を企画中です。決定し次第、同窓会の公式サイトや公式SNS（Facebook、X）でお知らせいたしますので、フォローをどうぞよろしくお願いします。



2024年度 同窓会主催デザイン講座のお知らせ

受験に、就活に、ポートフォリオに最適な作品ができます！

2023年から再開したデザイン講座が本年も開講の予定です。「デッサン」「色彩構成」「造形の基礎」の3つの基礎科目に併せて、バラエティ豊かな「特別講座」を企画する予定です。ポートフォリオに

も最適な、自分をアピールできる作品が製作できますので、桑沢受験を目指す方、またデザインに興味のある方や、これからデザインを学んでみたい方にぜひおすすめください。

開講時期・科目・受講料などの詳細は6月頃にお知らせいたしますので、詳しくは同窓会公式サイトをご覧ください。同窓会事務局までお問合せください。

TEL：03-3462-4029



同窓会主催

「桑沢デザイナーズ『ブック』マーケット 2024」を開催します

KUWASAWA
DESIGNERS
MARKET

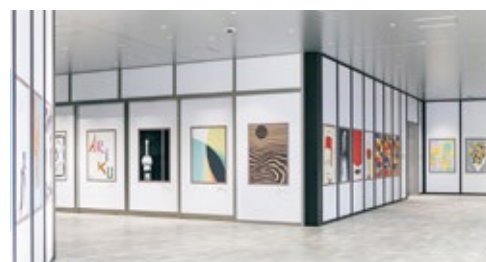
これまで偶数年に開催し、コロナ禍で中止していました同窓会主催のチャリティフリーマーケットを、2024年10月上旬の桑沢祭開催時期に合わせて開催します。今回は書籍に特化したフリーマーケットにいたしますので、家や事務所に眠っているデザインやアート関係の書籍

がある先輩の皆さん、この機会にご提供をお願いいたします！

書籍回収の段取り、収益の寄付先などの詳細は8月頃に同窓会公式サイトにアップいたしますので、どうぞチェックしてください。



Shibuya Sakura Stage × 桑沢デザイン研究所



現在もなお進行中の大規模な渋谷再開発プロジェクトの一環で、渋谷駅に隣接する新たな次世代型ランドマークとして2023年11月30日に竣工した「Shibuya Sakura Stage (渋谷サクラステージ)」に、桑沢デザイン研究所の学生と卒業生の課

題作品が、渋谷サクラステージ内でオープンを待つ施設などの仮囲いとして展示されています。本企画は夜間部「アドバタイジング」非常勤教員の高谷廉先生が、凸版印刷と東急不動産の協力のもと実現したもので、コロナ禍以降インバウンド

により再び世界で注目されている最先端の街「渋谷」で70年の歴史を誇る桑沢デザイン研究所が、学生や卒業生とともに地域文化へ貢献し、渋谷サクラステージに訪れる人々へデザイン／アートの魅力を伝えています。

大きな一歩を踏み出した「シブヤフォント」

2023年度のシブヤフォントは海外アワードの受賞、そして原宿の新拠点オープンを予定しているなど、大きな一歩を踏み出しています。

受賞した海外アワードは「ゴールデンピン・デザイン・ベストデザイン賞」(台湾)、「iFデザインアワード賞」(ドイツ)の2つで、共にソーシャルデザインの領域において高い評価を得られました。また、東急プラザ原宿「ハラカド」が開業する施設に拠点を移し、障がいのある人



2023年度の発表会の参加学生、参加施設と参加企業の皆さん

とさまざまな人々との新たな出会いの場「シブヤフォントラボ」の運営をスタートいたします。桑沢デザイン研究所の学



シブヤフォント 2023年度の新データラインナップ (一部)

生と共に取り組んだ2023年度の新たなデータも発表し、今後もますます社会に届けていきます。

2025年度 専門学校桑沢デザイン研究所 推薦入学 (同窓会推薦) 募集のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も専門学校桑沢デザイン研究所より、同窓会に推薦入学募集の要請がありました。つきましては、「自分の子供、孫をぜひ、桑沢に入学させたい」と希望される方は、9月中旬までに同窓会事務局にご連絡ください。推薦入学関係書類をお送りいたします。

●募集人員：若干名 (総合デザイン科・昼間部／専攻デザイン科・夜間部) 推薦入学の試験は10月20日(日)を予定しています。

第3回九州支部展 & 支部会の開催

2023年4月25日～30日まで福岡市美術館市民ギャラリー Aで、第3回九州支部展が開催されました。九州出身の同窓生の作品展示と特別ゲストとして前中四



国支部長の出本正彦さんの柿渋染めのトークイベントが行われました（P09桑沢地域賞を参照）。年代、作品ジャンルは様々ですが同窓生の交流を深めました。

会期中の29日には九州支部会を開催し、お互いの近況報告と本部の活動報告がされました。野田博生支部長の後任に小嶋一夫さん（1部49L3SD）が承認されました。野田支部長、今までありがとうございました。そして、小嶋新支部長の今後に期待いたします。

訃報と新支部長紹介

関西支部長・片岡 治さん（2部 55VD2）が2023年8月22日に急逝されました。後任には前関西支部長の房忍さん（1部 48L3ID）が承認されました。



2023年桑沢賞表彰式で支部からの副賞を和やかに紹介されていた片岡さん。まさかの悲報でした。

出版のお知らせ



『正しき地図の裏側より』
逢崎遊（2部 H30VD2B）
集英社
1,870円（税込）



『ワンコデパート』
牛窪良太（1部 60L 研イ住）
小学館
1,760円（税込）



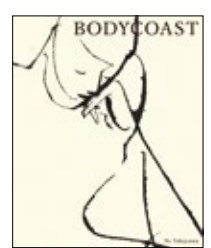
『ハムスターまものすてきなうち』
おまたたかこ
（2部 H02VD2A）
ハッピーオウル社
1,500円（税別）



『有元葉子 春夏秋冬うちの味』
有元葉子（1部 37L2P）
暮しの手帖社
1,980円（税別）



『オダカマサキ ダンボールアートワークス2』
オダカマサキ
（1部 H09L 研ID）
新紀元社
3,150円（税別）



『BODYCOAST』
横山雄（1部 H21VD3A）
DOOKS
4,950円（税込）



『一番わかりやすいはじめてのイチジンタロット』
愛新覚羅ゆうはん
（1部 H14D3A）
日本文芸社
2,500円（税別）



『大辻清司実験室』
大辻 清司
（1996年桑沢特別賞受賞）
リブラ出版
2,200円（税込）



『我が家のおせち 決定版』
有元葉子（1部 37L2P）
東京書籍
2,000円（税別）



『「はい」「いいえ」ほうこく』
浜田桂子（2部 43基造C）
理論社
1,650円（税込み）



『鳥居の碑』
京極夏彦（1部 57L2B）
講談社
3,600円（税別）



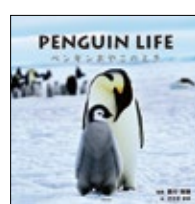
『アイコンデザインのひみつ』
米倉英弘（1部 H02L 研GD）
翔泳社
2,000円（税別）



『せかいのあいさつ 全3巻』
絵：下田昌克（1部 63L 研GD）
童心社
4,800円（税別）



『みんながヒーロー／SDGsとまほうのカギ』
MERRY PROJECT＝
水谷孝次（2部 50GD）
中央公論新社
1,500円（税別）



『PENGUIN LIFE』
ペンギンおやこのとき』
香川美穂
（2部 H04 VD2A）
青葙社
1,800円（税別）



『ビクルスとともだち』
夏目ちさ（2部 H01PD2）
福音館書店
1,760円（税込）



『鉄道 車内絵日記』
大崎めぐみ
（1部 H24VD3A）
株式会社天夢人
1,440円（税別）

受賞のお知らせ（学生は在校時）

- 清水啓喜（夜間部プロダクトデザイン専攻 1 年在校生） 学生照明展 林登志也賞 対象作品：チキンラーメン
- 松村佳由（夜間部プロダクトデザイン専攻 1 年在校生） 第 9 回医美同源デザインアワード「入院生活を豊かにするデザイン」 プロダクトデザイン部門 優秀賞 対象作品：pipitto
- 横山陸渡（夜間部ビジュアルデザイン専攻 1 年在校生） 第 57 回 かわさき市美術展 最優秀賞 対象作品：《さようなら さようなら》
- 福井文哉（夜間部プロダクトデザイン専攻 2 年在校生） 第 2 回 ファーストウッドプロダクトコンペティション 最優秀賞 対象作品：眼鏡のふるまいを変えるサステナブルな什器
- 中山大暉（夜間部プロダクトデザイン専攻 1 年在校生） 16th SHACHIHATA New Product Design Competition グランプリ 対象作品：F!nd It
- 岩柳麻子（1 部 H11D 研 C） LA LISTE 2023 PASTRY DISCOVERY GEM AWARD
- 肖陳新（昼間部ビジュアルデザイン専攻 3 年在校生） GDC Award 学生部門パッケージデザイン 銅賞 対象作品：牧場物語チョコレートパッケージデザイン
- 逢崎遊（2 部 H30VD2B） 小説すばる 第 36 回 新人賞 対象作品：正しき地図の裏側より
- 自由選択科目「ソーシャルデザインプロジェクト」 Golden Pin Design Award 2023 ベストデザイン賞 対象作品：シブヤフォント
- 豊田亮（2 部 H13SD2） 第 7 回 Woody コンテスト 木造住宅部門（一般部門） 佳作 対象作品：共生の家
- 唐田麻理奈（夜間部ビジュアルデザイン専攻 1 年在校生） 日本パッケージデザイン学生賞 2023 入選 対象作品：CLEAR SKY
- 高橋奏人（夜間部ビジュアルデザイン専攻 1 年在校生） 日本パッケージデザイン学生賞 2023 企業賞 対象作品：ひらきたい牛乳パック
- 堀川さくら（昼間部ビジュアルデザイン専攻 3 年在校生） 日本パッケージデザイン学生賞 2023 審査員特別賞 対象作品：花びらのハーブティー
- 松本聖矢（昼間部ビジュアルデザイン専攻 3 年在校生） 日本パッケージデザイン学生賞 2023 企業賞&審査員特別賞 対象作品：可能性がひらく瓶
- 岡田友香梨（2 部 2019VD2A） 南澤詩音（2 部 2021VD2B） 台湾国際グラフィックデザインアワード 2023 優秀賞 対象作品：クラフトジン「Terroir A（テロワール A）」
- 岡田友香梨（2 部 2019VD2A） 台湾国際グラフィックデザインアワード 2023 金賞 対象作品：蔵前の蕎麦屋「黒猫庵」VI
- 朱賀（1 部 2021VD3B） Pentawards 2023 Nxt-Gen Award 学生部門 最優秀賞 対象作品：Muety
- 須田明雄（1 部 41L2A） 第 86 回 新制作展 入選
- 肖陳新（昼間部ビジュアルデザイン専攻 3 年在校生） 国際デザインアワード『Hiibbrand Awards 2022』 Bronze Award 対象作品：猫咖啡
- 油井初心（1 部 2022VD3A） 2023 年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選 対象作品：BONE
- Jikomi Kumagai（昼間部プロダクトデザイン専攻 3 年在校生） 2023 年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選 対象作品：Hippo Stool
- 小松はるな（夜間部ビジュアルデザイン専攻 2 年在校生） JAGDA 国際学生ポスターアワード 2023 金賞 対象作品：Share
- 増田玲奈（夜間部ビジュアルデザイン専攻 1 年在校生） 富山デザインフェア 2023「パッケージデザインコンペティション」 武内プレス工業株式会社賞 対象作品：富山のバットをつつむ
- 大美賀均（1 部 H24SD3E） 第 80 回ヴェネツィア国際映画祭 銀獅子賞 対象作品：「悪は存在しない」：主演
- 佐治良太郎（1 部 49L3ID） 第 66 回 CWAJ 現代版画展 入選 対象作品：[Happiness Is in Your Arms] 幸せが腕の中
- 玉城結羽（昼間部ビジュアルデザイン専攻 3 年在校生） 第 7 回アート & デザイン新世代賞 優秀賞 対象作品：In every.
- 豊田亮（2 部 H13SD2） 木材を使った家具のデザインコンペ 2023 入選 対象作品：KAGOISU
- 秋谷桃子（1 部 H25SD3E） 木材を使った家具のデザインコンペ 2023 入選 対象作品：TETORA STOOL
- 西田誠治（2 部 H06SD2） 第 36 回いしかわ広告景観賞 石川県県知事賞 対象作品：noto nature art lab
- 金井勇（1 部 H28VD3C） 名古屋イラストレーターズコンペティション 2023 NIC 賞 対象作品：空想宇宙動植物園
- 鈴木初奈（夜間部ビジュアルデザイン専攻 1 年在校生） 2023 読書週間ポスター 大賞
- 福井健人（1 部 H06L 研 GD） BILLIKEN CREATORS AWARD 2023 ゴールド作品賞 対象作品：BILLIKEN RAINBOW
- 三股条太郎（昼間部プロダクトデザイン専攻 2 年在校生） KAI Hat design competition 優秀賞受賞 対象作品：Alienation
- 肖陳新（昼間部ビジュアルデザイン専攻 3 年在校生） Asia-Pacific Design No.18 入選
- 高田英夫（1 部 44L3GD） 第 36 回日本の自然を描く展 佳作賞 対象作品：眺望光景 A 入選 対象作品：眺望光景 B
- 豊田亮（2 部 H13SD2） 第 6 回 まちを楽しむストリートファニチャーデザインコンペティション 推薦作品入賞 対象作品：編みコミュニティ
- NON SUGISAWA（昼間部ビジュアルデザイン専攻 卒業） SICF24 オーディエンス賞
- 大谷陽一郎（2 部 H26VD2A） SICF24 SICF24 スパイラル奨励賞
- 栃木盛宇（HONOKA / 2 部 2021 PD2A） 第 12 回「サローネサテリテ・アワード」 グランプリ 対象作品：TATAMI ReFAB PROJECT
- 飯塚凜（昼間部ビジュアルデザイン専攻 3 年在校生） 第 10 回 あなたが考えるブランドラベルコンテスト 最優秀賞
- 石堂律（1 部 34L 件 A） 特許第 7016768 号 対象作品：チトリ

2023 年からの個展・エキシビジョン MEMO ●主に同窓会にご連絡いただいたものを掲載しました。ご協力ありがとうございました。次回のニュースでもお待ちしております。

誌面の都合により 10 月以前の個展・エキシビジョンの情報は、同窓会ウェブサイトをご覧ください。

rose is a rose is a rose is a rose.	11 月 10 日～ 12 月 22 日	東京・天王洲 Tokyo International Gallery	中村桃子（1 部 H24VD3A）
猫百態展 VOL.4	11 月 13 日～ 19 日	東京・銀座 柴田悦子画廊	小林由里（1 部 59L 研 GD）ほか
出本正彦 柿染染と襦袢展	11 月 16 日～ 21 日	広島・甘日市市 ぎやらりい宮郷	出本正彦（1 部 44D3B）
村西恵津作品展 古都散歩	11 月 16 日～ 30 日	東京・銀座 伊東屋ギャラリー	村西恵津（1 部 55L2B）
蘇鉄酒飲 THE CYCAD-ALE DRINKARD!!	11 月 18 日～ 26 日	東京・西池袋 CYCAD BREWING	ナミサトリ（2 部 H26VD2B）
倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙	11 月 18 日 ～ 2024 年 1 月 28 日	東京・世田谷 世田谷美術館	倉俣史朗（1 部 31LA）
浜田桂子 新作絵本原画展『「はい」「いいえ」ほうこく』	11 月 20 日～ 12 月 2 日	東京・表参道 PinpointGallery	浜田桂子（2 部 43 基造 C）
林まさのりフェルトワーク展 again	11 月 22 日～ 27 日	東京・自由が丘 キャンパスギャラリー自由が丘	林正徳（1 部 47L2A）
金原京子 「ペットボトルの見た夢は 子供のための森の城」	11 月 23 日～ 12 月 11 日	埼玉・さいたま市大宮区 M's SQUARE	金原京子（1 部 41L3GD） + さいたま市立桜木小学校 6 年生児童
もじイメージ Graphic 展	11 月 23 日 ～ 2024 年 3 月 10 日	東京・赤坂 21 __ 21 DESIGN SIGHT	浅葉克己（1 部 34L 基 A）、戸田ツトム（1 部 48L3GD）、松本弦人（2 部 58VD2A）ほか
展覧会「PARTY TIME」	11 月 24 日～ 26 日	東京・渋谷 THE blank GALLERY	1 部 VD 専攻 2018 年度卒有志グループ
mayu + seina「ふたり展」	11 月 24 日～ 26 日	東京・渋谷 THE blank GALLERY	mayu（2 部 H30VD2A） + seina
JAGDA 国際学生ポスターアワード 2023	11 月 29 日～ 12 月 11 日	東京・六本木 国立新美術館	小松はるな（夜間部ビジュアルデザイン専攻 2 年在校生）ほか
小池 汪 回顧展	11 月 29 日～ 12 月 3 日	神奈川・川崎 アートガーデンかわさき第 1 展示室	小池汪（1 部 35L2）
「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容	12 月 2 日～ 2024 年 2 月 4 日	東京・渋谷 松濤美術館	大辻清司（1996・第 4 回桑沢特別賞受賞）、牛腸茂雄（1 部 42L3 写真）ほか
「現代ストレート写真」の系譜	12 月 8 日～ 23 日 / 2024 年 1 月 6 日～ 28 日	東京・恵比寿 MEM	潮田登久子（1 部 38L3 写真）、牛腸茂雄 / 佐治嘉隆 / 関口正夫 / 三浦和人（1 部 42L3 写真）
倉俣史朗展	12 月 8 日～ 23 日	東京・駒込 ときの忘れもの	倉俣史朗（1 部 31LA）
「軽く、漂うものすべて Lightly Afloat,everything」佐藤英里子 版画展	12 月 8 日～ 23 日	東京・新宿 PP/print gallery	佐藤英里子（2 部 H22VD2B）
WHAT CAFE EXHIBITION vol.32	12 月 9 日～ 24 日	東京・東品川 WHAT CAFE	志方春奈（2 部 2021VD2B）ほか
「ただ、カラフルだけじゃない。」	12 月 13 日～ 21 日	東京・渋谷 桑沢デザイン研究所 1F 展示スペース	ぎざわ & nabana （昼間部ビジュアルデザイン専攻 3 年在校生）

『A eSpiration』	12月16日・17日	東京・北青山 AQspace 表参道	野村仁衣那（1部2020SD3E）ほか
第29回 小さい小さい絵展	12月21日～27日	東京・池袋 東武百貨店 アートギャラリー	小林由里（1部59L研GD）ほか
パッケージデザイン創作展「水 塩 米 酒」	12月21日～30日	東京・渋谷 渋谷ヒカリエ 8/ CUBE	永沼真一郎（1部H09L2A）、川路欣也（1部H04L研PK）、小川裕子、渡辺有史、田中健一、天野和俊ほか
	2024年		
Masahiro Imai [二人展] Ruiko Imai	1月9日～21日	東京・人形町 JINEN GALLERY	今井雅洋（1部48L3GD）+ 今井瑠衣子
「TAMAOKI Jun Solo Exhibition 植物の観察」	1月16日～2月26日	東京・多摩川 GALLERY futari	玉置淳（造形分野専任教員）
かわべしおん初個展 – Catnap –	1月17日～28日	東京・台東 TOKYO PIXEL. shop & gallery	かわべしおん（2部H22VD2B）
「クリエイター 100人からの年賀状」展 vol.19	1月17日～28日	東京・神田 竹尾見本帖本店 2F	浅葉克己（1部34L基A）、高田唯（2部H14VD2A）、高橋正実（1部H08L研GD）、岡田友香梨（2部2019VD2A）、草桶開（2部H29PD2）ほか
アリク祭“デ”	1月27日	東京・代田 BONUS TRACK	夜間部ビジュアルデザイン専攻2年生授業科目「アドバタイジング」
相馬 涼 個展 LOVE & LUCK	2月2日～14日	東京・北青山 NEHAN TOKYO	相馬涼（1部H25VD3A）
mashu 初個展 『花ひらく』	2月6日～11日	東京・神宮前 ギャラリールモンド	mashu（2部2019VD）
長坂ビショップ大山「游楽展」	2月11日～17日	神奈川・横浜 GALERIE PARIS	ビショップ康史（1部48L3ID）
小さい小さい絵展	2月15日～20日	千葉・船橋 東武百貨店美術画廊	小林由里（1部59L研GD）ほか
Momoko Nakamura Soloexhibition 「(angel)」	2月17日～3月10日	東京・墨田 GALLERY ROOM・A	中村桃子（1部H24VD3A）
アブソリュート・チェアーズ	2月17日～5月12日	埼玉・さいたま市浦和 埼玉県立近代美術館	潮田登久子（1部38L3写真）ほか
FRÜHLING	2月24日・25日	東京・渋谷渋谷藝術	夜間部ビジュアルデザイン専攻2年有志
4019	2月26日～28日	東京・高円寺北 gallery33 NORTH-A	一瀬真歩、永岡詩緒（昼間部ビジュアルデザイン専攻2年在校生）
おまたたかこ絵本原画展『ハムスターまものすてきなうち』	2月28日～3月5日	東京・神保町 ブックカフェ ギャラリーこまどり	おまたたかこ（2部H02VD2A）
Re:lection 永澤瑠奈・山田百香二人展	3月5日～10日	東京・北青山 Nine Gallery	永澤瑠奈（昼間部ビジュアルデザイン専攻2年在校生）+ 山田百香
遠藤 享 追悼展	3月9日・10日	東京・銀座 養清堂画廊	遠藤享（1部36L3GD）
showcase#1	3月12日～18日	東京・多摩川 GALLERY futari	うめはらもも（1部H27VD3C）、かお（1部2023VD3B）、芳賀あきな（1部H26VD3C）、玉置淳（造形分野専任教員）
手島加江 個展	3月18日～23日	東京・南青山 SPACE YUI	手島加江（1部54L研PK）
内堀結友 個展「EP」	3月20日～25日	東京・目黒 準備中（会場名）	内堀結友（1部H30VD3B）
安齋肇個展「〇〇〇〇」	3月21日～4月20日	東京・勝どき 近富ビル倉庫3階3B	安齋肇（1部49L2B）
こういうヤツらです。展	3月23日～24日	東京・雷門 Event Space “オドリバ”	昼間部プロダクトデザイン専攻3年有志展示
独創とときめきのハンドクラフト展	3月28日～4月3日	東京・下北沢 下北沢駅前 本多劇場1Fフロア内	出本正彦（1部44D3B）
相馬友子創作展	3月29日～31日	東京・調布 調布パルコ 8F クレストンホテル	相馬友子（1部35D2A）
並木千香 個展「どこかで出会う」	3月29～4月3日	東京・神宮前 HB Gallery	並木千香（2部H26SD2）
野田博生展	4月1日～6日	東京・銀座 うしお画廊	野田博生（2部56VD1A）
横森美奈子のNEW 利休 Bag 展 Vol.20	4月6日～11日	東京・表参道 ギャラリーコンセプト 21	横森美奈子（1部44L2A）

■ 訃報

● 片岡治さん（2部55VD2）2023年8月22日逝去 享年71

1980年、桑沢デザイン研究所2部ビジュアルデザイン科卒業。イベント関係の会社に20年ほど勤務のあと2001年に独立し、イベントコーディネーター、グラフィックデザインやウェブデザインを展開した。2016年から亡くなる昨年まで同窓会関西支部長を務めた。

● 矢沢宏司さん（1部32L研）2024年1月6日逝去 享年94

1957年、桑沢デザイン研究所グラフィックデザイン研究科卒業後、研究所のビジュアルデザイン科専任講師、教授、教務部長を歴任した。また1997年から2002年まで同窓会主催の夏期デザイン講座の講師を担当。

● 遠藤享さん（1部36L3GD）2024年2月10日逝去 享年90（本誌13ページ記事参照）

同窓会事務局より

- 今回も同窓会ニュースの原稿を多くのみなさんよりいただきましてありがとうございます。仕事の報告、個展の案内・報告、コラム、受賞、出版情報などお知らせください。またデザイン関連以外のこと（例えば、ボランティア活動、自慢のコレクション、ショップ経営など）や若い人の活躍、地方のニュースなども大歓迎です。原稿をお待ちしております。次号（192号）は2025年4月下旬に発行の予定です。（原稿締切2025年2月末）
- 同窓会名簿の充実のため、住所移転や同窓会ニュースの送付先変更などありましたら必ず同窓会事務局までご連絡ください。どちらも同窓会までEメールまたはファックスにてご連絡お願いいたします。
- 旧住居表示のままの方は郵便物が届かなくなりますので住所変更をお願い致します。建物名を省略しておりますと届かない場合もございますので建物名もお知らせください。
- みなさんのお知り合いで同窓会ニュースが届いていない同窓生がおられましたら同窓会

までご連絡頂けますようお願いいたします。また、お亡くなりになられた同窓生に依然として同窓会からのお知らせや同窓会ニュースが届けられている場合は、ご家族の方から事務局へご一報頂ければ、配送停止の手続きをいたします。

同窓会の活動をご支援ください。

同窓会活動の継続と発展を目的として寄付金募集の案内をさせていただきます。ご協力をいただける方は記載のQRコードの手順に沿ってお手続きをお願いします。今後もし引き続き同窓会活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

問い合わせ先 桑沢デザイン研究所同窓会事務局



KDS NEWS
dosokai
2024 no.191

2024年4月24日発行

桑沢デザイン研究所同窓会

150-0041 東京都渋谷区神南1-4-17
TEL 03-3462-4029 FAX 03-3462-4090

✉ info@kds-doso.net 🌐 www.kds-doso.net/
📘 www.facebook.com/kdsdoso 📧 kuwasawadoso

発行編集 桑沢デザイン研究所同窓会
大槻高康（1部48L3GD）、田辺千晶（1部56L2Cイ住）
赤羽なつみ（1部49L3PK）、森井ユカ（1部60L2A）、
宮澤太地（2部H17VD2B）、日下部昌子（1部H06L研GD）
数内雄美（2部H17VD2B）、由良万紀子（2部H25VD2B）
後藤和樹（1部H30PD3D）
デザイン GRID + 矢島裕次（1部H18L3B）
+ 山田友香子（2部H25基礎造形）
撮影 吉田仁（1部45L3写真）、雑賀吉人（2部H19VD2A）／他
校閲 本田理恵（1部H20VD3C）
印刷 株式会社 アトミ